



文部科学省後援 第9回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2023年12月23日(土)、24日(日)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：ハイブリッド型 東京大学+オンライン (Zoom)

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

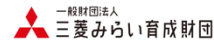
共催：東京大学生産技術研究所、大阪公立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、一般社団法人
日本英語交流連盟、一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、

一般財団法人 三菱みらい育成財団



参加校 (現地) :

(北海道) 北海道釧路湖陵高校 (青森県) 青森県立青森高校 (岩手県) 岩手県立一関第一高校、岩手県立盛岡第一高校 (茨城県) 東洋大学附属牛久高等学校 (栃木県) 栃木県立宇都宮高校 (群馬県) 群馬県立前橋高校、群馬県立太田女子高等学校 (埼玉県) 埼玉県立浦和高校、埼玉県立浦和第一女子高校、さいたま市立浦和高校 (千葉県) 千葉県立船橋高校、東邦大学附属東邦高校、翔凩高校 (東京都) 筑波大学附属駒場高校、東京都立日比谷高校、東京都立富士高校、東京都立三田高校、千代田区立九段中等教育学校、渋谷教育学園渋谷高校、東洋英和女学院高等部、富士見高校、品川女子学院高等部、獨協高校 (神奈川県) 神奈川県立横浜翠嵐高校、神奈川県立湘南高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立相模原高校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、聖光学院高校、栄光学園高校、浅野高校、慶應義塾高校、洗足学園中学高等学校、湘南白百合学園高校 (福井県) 福井県立藤島高校 (山梨県) 山梨県立甲府西高等学校 (長野県) 長野県長野高校、長野県屋代高校、長野県諏訪清陵高等学校 (滋賀県) 滋賀県立彦根東高校 (大阪府) 大阪府立北野高校 (奈良県) 奈良県立奈良高校 (徳島県) 徳島県立城ノ内高校 (福岡県) 福岡県立城南高校 (熊本県) 真和高校 (鹿児島県) 鹿児島県立鶴丸高校、鹿児島県立大島高校 (静岡県) 静岡県立清水東高等学校

参加校 (オンライン) :

(青森県) 八戸聖ウルスラ学院高校 (宮城県) 仙台市立仙台青陵中等教育学校 (秋田県) 秋田県立本荘高校 (山形県) 山形県立山形東高校、山形県立東桜学館高校 (茨城県) 清真学園高校 (栃木県) 栃木県立宇都宮東校、作新学院高校 (東京都) 東京都立武蔵高校 (神奈川県) 神奈川県立多摩高校 (長野県) 長野県松本県ヶ丘高校、長野県伊那北高校 (岐阜県) 岐阜県立岐阜高校 (三重県) 三重県立四日市高校 (京都府) 京都府立嵯峨野高校、京

都府立鳥羽高校、京都市立堀川高校、京都橘高校（大阪府）関西創価高校（兵庫県）神戸大学附属中等教育学校、神戸市立葺合高校、雲雀丘学園高校（鳥取県）鳥取県立鳥取東高校、鳥取県立鳥取西高校（福岡県）福岡県立香住丘高校（熊本県）熊本県立人吉高校（鹿児島県）鹿児島県立鹿児島中央高校、鹿児島情報高校（沖縄県）沖縄県立前原高校

現地 49 校、オンライン 29 校、合計 78 校

開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。（参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>）

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

予選 1：Japan should make university tuition free.

（日本は、大学を無償化すべきである。）

予選 2：Being fashionable brings more benefit than harm.

（おしゃれは、害よりも利益をもたらす。）

予選 3：To change Japan, it is better to be a business person than a politician.

（日本を変えるなら、政治よりも商売を選ぶべきである。）

予選 4：The U.S. should stop supporting Israel.

（アメリカはイスラエルへの支援をやめるべきである。）

準々決勝：Priority should be put on speed when deliberating on policy/decision making.

（政策／意思決定のために検討する際は、スピードを重視すべきだ。）

準決勝：Going to university abroad is better than going to university in Japan.

（国内よりも海外の大学に進学した方がよい。）

*For this debate, a university refers to an undergraduate school, not a graduate school.

※本論題において、大学は学部であり、大学院ではない。

決勝：The upper limit of income should be 100 million yen and excess income should be redistributed.

（所得上限 1 億円を設けて、超過分は再配分すべきである。）

キーノートレクチャー講師：

- ・株式会社チェリオコーポレーション代表取締役社長 菅大介氏
- ・東京大学生産技術研究所特任教授 筒井 晴香氏
- ・公益社団法人笹川平和財団常務理事 茶野 順子氏

1 日目

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020 年大会からオンラインで開催していた PDA 全国大会ですが、今年は現地：東京大学生産技術研究所とオンライン：Zoom のハイブリッド開催となりました。東京大学には北は北海道、南は鹿児島まで全国津々浦々から 49 校の高校が集結しました。そして、メインホールのスクリーンには Zoom で大会に参加する 29 の高校が映し出されました。開会式では事前に参加校から提供された写真で作成された参加校紹介動画が流れ、大会ルールや、PDA 認定教育ジャッジの紹介、ジャッジによる生徒の評価方法や生徒によるジャッジの評価方法について説明が行われました。ルールの確認では、POI (Point of Information : ディベート中の質疑応答) の練習も行われ、現地とオンラインの生徒や教員が同時に POI を行いました。



開会式の様子



オンラインチームと挨拶

開会式が終わると予選の開始です。予選 1 の論題は「日本は、大学を無償化すべきである」でした。日本政府が多子世帯への大学の入学金や授業料を無償化にすることなどを盛り込んだ「こども未来戦略」を閣議決定するなど、大学無償化への動きが近年見られます。予選 1 ラウンド目ということで、初めは緊張している様子もありましたが、議論が進むにつれ緊張がほぐれ、議論が白熱していく様子が見られました。

大学無償化に対して、貧困層の教育機会の拡充という議論が出ていた一方で、大学を無償化するのではなく高校までを無償化するべきだという意見も見られました。勉強に対するモチベーションへの効果など、実際に進路を考える状況にある高校生ならではのリアルな視点からの意見もあり、議論が深められていました。



PDA 認定教育ジャッジ・POI (慶應 VS 長野)



握手 (東洋英和 VS 屋代)



鹿児島情報 VS 関西創価



京都橘 VS 神大附属



富士 VS 前原(ハイブリッド)



POI!(横浜翠嵐 VS 大島)



学校の様子(嵯峨野 VS 清真)



PDA 認定教育ジャッジのコメント(太田女子 VS 柏陽)

予選2の論題は「おしゃれは、害よりも利益をもたらす」でした。近年、「私らしさ」を表現する手段としてファッションを活用する人も多く見られるようになってきています。1ラウンド目でジャッジからもらったフィードバックを活かして、より良いスピーチをしようとする姿勢が多く見られました。「見た目」に関して、第一印象の大切さという意見が見られた一方で、ルッキズムに繋がってしまうという意見も見られました。また、低価格でおしゃれを楽しめるファストファッションに対して、環境問題を提起するチームもありました。様々な方向からおしゃれを分析し、白熱した議論が行われていました。



POI!(県立浦和 VS 盛岡第一)



POI!(茅ヶ崎北陵 VS 前橋)



POI (慶應 VS 諏訪清陵)



準備時間の様子(作新学院)

予選2と予選3の間にPDA代表理事中川よりレクチャーが行われました。レクチャーでは、三菱みらい育成財団助成のAIディベートシステムの紹介とESUJ(一般社団法人日本英語交流連盟)、HPDU(日本高校生パラメンタリーディベート連盟)について告知が行われました。英語を使う機会を欲している高校生は集中しながらレクチャーに聞き入りました。



AI ディベートシステムの紹介



ESUJ 副会長岡田氏による告知

予選3の論題は「日本を変えるなら、政治よりも商売を選ぶべきである」です。実生活に直接結びつけることがやや難しい論題であったため、実際過去にどのようなことがあったかなどの具体例の提示が勝敗を左右していたように見られました。予選3ラウンド目ということもあり、さらなる積極性がみられました。二つ試合を終えた生徒たちはブラッシュアップされていました。自分たちが言いたいことに繋げることができるような質問を戦略的に行いました。



POI!(湘南白百合 VS 日比谷)



POI!(市立浦和 VS 青森)



画面越しに POI! (八戸ウルスラ VS 雲雀丘)



ディベート後の交流 (城ノ内 VS 長野)

予選4の論題は「米国はイスラエル支援をやめるべきである」でした。イスラエルとパレスチナをめぐる問題は、10月の紛争開始以降、今まさに世界中で議論の的となっています。1日目最後の試合ということで、ディベーター達は全力で議論に臨みました。ガザで多くの民間人がイスラエル軍の攻撃の巻き添えになっている事から、米国はイスラエルへの武器支援をやめるべきという主張がありました。一方で、ユダヤ人が長い間迫害されてきた歴史を踏まえるべきだという反論や、米国の中東・世界全体での影響力を維持し民主主義を守るべきだという主張も出ていました。様々な知識を組み合わせ、とても高度な議論を戦わせていました。



POI! (聖光 VS 長野)



うったえかける POI (藤島 VS 浅野)

大会1日目はクリスマスイブ前日。PDA 学生スタッフがサンタクロースに扮し、参加者にチョコレートのプレゼントを配りました。参加者同士交流を楽しみ、1日目が終了しました。



サンタクロースからプレゼント



サンタクロースと記念撮影

2日目

2日目の最初は、決勝トーナメントに進むチームの発表です。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次への学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジを10段階評価します。平均点が高かった29名の先生が発表されました。おめでとうございます。上位に選ばれた先生は決勝トーナメントでジャッジを務めていただきます。次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。喜びの音が響き渡りました。

予選結果

予選1位	浅野高等学校	予選5位	筑波大学附属駒場高等学校
予選2位	長野県長野高等学校	予選6位	徳島県立城ノ内高等学校
予選3位	山形県立東桜学館高等学校	予選7位	聖光学院高等学校
予選4位	岐阜県立岐阜高等学校	予選8位	神戸大学附属中等教育学校

準々決勝の論題は「政策／意思決定のために検討する際は、スピードを重視すべきだ。」でした。プレパレーションの時間は、株式会社チェリオコーポレーション代表取締役社長の菅大介氏によるキーノートスピーチが行われました。在籍していたスタンフォードの校風「多様性を大事にする」が今の社風に繋がっていると話され、実際に多様性をイメージさせる「レインボーカラー」を製品に取り入れており、多くの人々に多様性への理解を深めて欲しいとメッセージが伝えられました。現在認知の低い“ALLY(支援者)”を増やしていくという目的のもと、サントリーホールディングスや日本コカ・コーラと協力し、飲料業界で活動を行っており、経済同友会と共同で活動を行っていくことも計画しているそうです。生徒から「学生は何を意識して活動に参加するべきなのか？」など質問の手が上がりました。単にディベートをするだけでなく、自分たちはどのように関係することができるのかや、ある事象が起こった背景についてその歴史などを知ろうとする「探究心」が見て取れました。



菅氏によるキーノートレクチャー



チェリオの飲料水と記念撮影

準々決勝は4つの会場で行われました。そのうち3つの会場では、現地対オンラインのハイブリッド対戦となりました。予選以上にPOIが活発に出され、多くの生徒が観戦する中堂々とスピーチを行いました。しっかり調べたり、コンセンサスをとる努力をしたりすることと、とにかくスピードを重視し、何か課題が生まれてもそれをさらにスピーディに乗り越えていく方がより多くの課題を解決できるのではないかと、など時間をかけることとスピードを重視することそれぞれのメリット・デメリットについて具体例を交えながら白熱したディベートが展開されました。



POI! (聖光 VS 長野)



東桜学館 VS 城ノ内



筑駒 VS 岐阜



画面越しの握手 (浅野 VS 神大附属)

準々決勝終了後は、お昼休みです。現地では大きな輪を作って学校間のプレゼント交換が行われました。プレゼント交換をきっかけにコミュニケーションも活性化しました。オンラインでは、ZOOMのブレイクアウトルームを使った生徒同士の交流が行われました。



プレゼント交換



他校生徒と仲良くなりました



画面越しに交流 (東桜学館)

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「国内よりも海外の大学に進学した方がよい。」です。準備時間の間、東京大学生産技術研究所特任教授筒井晴香氏に準々決勝の論題に関するレクチャーをしていただきました。特に現代のように技術が発達した時代こそ「ゆっくり考えること」が重要であるということについてお話いただきました。一見それは「即興型」英語ディベートのアンチテーゼのようで、実はこのディベートを通して自分の中で社会課題やそのトピックについてじっくり考えるきっかけになっているのかもしれません。

準決勝では、日本でしか学べないこと、海外でしか学べないことなどのほかに入学料や学費などの経済面での差についても言及がありました。大学ランキングやその背景を用いて説明したり、オンライン授業などの増加を描写しながら学問的には場所が関係なくなっていることについて説明したり、甲乙つけ難い準決勝となりました。



筒井先生によるキーノートレクチャー



堂々とスピーチ



準決勝でも POI で質疑応答



メモをとりながらスピーチを聞きます

準決勝の後にはついに決勝戦、そしてそれと同時に3位決定戦が行われました。論題は、「所得上限1億円を設けて、超過分は再配分すべきである。」でした。また、決勝、3位決定戦の準備時間の中に、公益社団法人笹川平和財団常務理事である茶野順子氏にレクチャーをしていただきました。準決勝のテーマにもなっている海外の大学での学びやその生活についてエピソードを交えながらご解説いただきました。留学や海外進学を選択肢として考えていなかった生徒にとっては新たな選択肢に、元々海外で学びたいと考えていた生徒にとってはその具体的手段について知る機会になりました。



茶野氏によるキーノートレクチャー

レクチャーが終わり、いよいよ最後の試合が行われました。肯定側からは植民地支配など歴史的に生み出された持てる者と持たざるものの差異は非正義であって、貧困層の人々を富の再分配によって救う必要があるという話が出されました。一方で否定側は、1億円の所得制限を設けると、富裕層がタックスヘイブンに移動し、仮に能力があっても1億円を超えて働かなくなることから、国の経済にとって悪影響となることを指摘しました。積極的なPOIのやり取りが見られ、甲乙つけがたい接戦となりました。



ジェスチャーを用いながらスピーチ(決勝)



ジャッジブレイクした教員による進行



3位決定戦



POIの応酬がつづきます

決勝戦の後、表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われると同時に、文部科学省・外務省後援 第9回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権を手に入れた学校も発表されました。

第9回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会結果

〈チーム賞〉

優勝 聖光学院高等学校

準優勝 浅野高等学校

3位 筑波大学附属駒場高等学校

準決勝進出チーム (4位)

徳島県立城ノ内高等学校

準々決勝進出チーム

長野県立長野高等学校

山形県立東桜学館高等学校

岐阜県立岐阜高等学校

神戸大学附属中等教育学校

9位 岩手県立一関第一高等学校

10位 福井県立藤島高等学校

11位 神奈川県立横浜翠嵐高等学校

12位 さいたま市立浦和高等学校

13位 東京都立日比谷高等学校

14位 栃木県立宇都宮高等学校

14位 雲雀丘学園高等学校

14位 栃木県立宇都宮東高等学校



優勝 聖光学院高校



準優勝 浅野高校



3位 筑波大学附属駒場高校

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

〈授業導入優秀賞〉

- ・ 福井県立藤島高等学校
- ・ 神奈川県立相模原高等学校
- ・ 獨協中学高等学校

〈授業導入賞〉

- ・ 八戸聖ウルスラ学院高等学校
- ・ 仙台市立仙台青陵中等教育学校
- ・ 秋田県立本荘高等学校
- ・ 山形県立東桜学館高等学校
- ・ 山形県立山形東高等学校
- ・ 清真学園高等学校
- ・ 栃木県立宇都宮高等学校
- ・ 群馬県立太田女子高等学校
- ・ さいたま市立浦和高等学校
- ・ 品川女子学院高等部
- ・ 渋谷教育学園渋谷高等学校
- ・ 神奈川県立多摩高等学校
- ・ 神奈川県立横浜翠嵐高等学校
- ・ 長野県屋代高等学校
- ・ 長野県諏訪清陵高等学校
- ・ 長野県長野高等学校
- ・ 京都市立堀川高等学校
- ・ 京都府立嵯峨野高等学校
- ・ 大阪府立北野高等学校
- ・ 神戸市立葺合高等学校
- ・ 福岡県立城南高等学校
- ・ 福岡県立香住丘高等学校
- ・ 真和高等学校
- ・ 熊本県立人吉高等学校
- ・ 鹿児島県立大島高等学校

＜その他個人賞＞（多数、個人名は略）

・ジャッジ賞、ベストディベータ賞、POI 賞、文部科学大臣賞（ベストスピーカー賞）



ベストジャッジ賞



ベストディベータ賞



ベスト POI 賞



文部科学大臣賞

以上の結果を受け、第9回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の6校に進呈されました。

〈1位～3位〉 聖光学院高等学校、浅野高等学校、筑波大学附属駒場高等学校
〈授業導入優秀賞〉 福井県立藤島高等学校、神奈川県立相模原高等学校、獨協中学高等学校

キーノートレクチャーの感想 (抜粋)

- ・なかなか専門家の話を聞くことがないので、とても勉強になった。(熊本・真和)
- ・普段では知ることのできない内容を聴けてよかった。(群馬・前橋)
- ・海外での経験を今に役立ててる方や未来の日本に関わる研究をされている方のお話が聞けて、興味深かった。(埼玉・浦和第一女子)
- ・論題提示の背景が理解できて議論の要点を押さえて論点を整理する一助になったと思う。(長野)
- ・社会的な議題の講義に絞られていて、すごく参考になりました。ここで出た情報をディベートでも活用していきたいです。(鳥取・鳥取西)
- ・普段自分では調べない分野についてお話を聞くことが出来て自分の知識を広げることが出来ました。(東京・富士見)
- ・キーノートスピーカーのお話を聞いたおかげで、今回の論題だけでなく、様々な事物に対する新しい視点を持つことができたと思います。(奈良・奈良)
- ・目覚ましいキャリアの貴重な話を聞けてとても良い機会でした。自分の知らない世界の奥深い話を聞けてとても興味深かったです。(神奈川・柏陽)
- ・テレビ番組や新聞などで見る時事的で広義的な問題や取り組み、考え方については知っていたが、今回のキーノートレクチャーを通して各企業・団体が取り組んでいることについて知ることができよかった。(岩手・一関第一)
- ・様々な分野の最先端の方々のお話を聞くことができ、大変素晴らしい機会になった。(長野・諏訪清陵)
- ・特に筒井先生のキーノートレクチャーが印象に残っています。elsi についての興味が深まりましたし、決断は必ずしも急がなくて良いと聞けて良かったです。(埼玉・浦和一女)
- ・一つのことについて深く掘り下げて聞くことはあまりないので、新しい知識を得られてとても貴重な機会となりました。(福岡・城南)
- ・大変興味深く、特に ELSI に関して更に知見を得たいと思いました。(東京・東洋英和)
- ・とても興味深かったです。特にチェリオ様のレクチャーで、政治と商業の観点でのディベートとよく繋がって、興味深かったです。(兵庫・雲雀丘)
- ・海外経験があり、また成功してる方々の話はとてもためになりました。論題にそってレクチャーしてくれてる所が有難かったです。(鹿児島・鹿児島情報)
- ・いろいろなところで活動されている方のお話を聞けて、とても興味深かった。特に、筒井さんのキーノートレクチャーが自分にはない考えで、共感し納得した。(秋田・本荘)
- ・とてもタメになりました。3人の先生方の話を「社会を変えるために自ら行動するが大事だが、ゆっくり立ち止まって見直すことも大事だ」ということだと感じました。心に留めて生きたいです。(秋田・本荘)
- ・チェリオさんが他の飲料会社と協力して活動したという話がとても興味深かったです。(神奈川・慶應)

- ・すべて私が興味のある話題に関してのレクチャーだったので、レクチャーの受けごたえがあった。LGBTQ の話題や、海外留学支援について、それぞれの視点から聞けたので、有効に活用していきたい。特に、笹川財団の奨学金に関しては、返却性でないのも魅力的だと思った。(青森・青森)
- ・ELSI のレクチャーのおかげでいちばん難しいと感じたモーションの論点について考えやすくなりました。(神奈川・相模原)
- ・とても貴重な機会をありがとうございました。3 番目の茶野さんのレクチャーで、海外留学のために、返さなくても良い奨学金があるということを知りました。また、海外留学なんて、考えたこともなかったので、自分の視野を広げる良い機会となりました。ありがとうございました。(鹿児島・鹿児島中央)
- ・最近はいかに早く問題を処理するかという能力が問われる風潮にある中、じっくりと物事を考えることを大切だとする意見を投じていたのが、同じ考えを持っていた私にとって嬉しかったです。(神奈川・相模原)
- ・ディベートに関してというより、社会勉強として学べる点が多くあった。国際的な視点から、今後社会で活躍する際の考え方や現在の課題の捉え方について非常に勉強になり、感銘を受けた。(青森・青森)
- ・普段、こういった話を聞くことがないのでとても良い経験になりました。ディベートには直接は関係ないものの、ディベートをするうえでの考え方や将来にとってとても大切なことだと思うので、これから活かしていきたいです。(栃木・宇都宮東)
- ・プロフェッショナルな方々のお話を直接聞ける機会はあまりないので、貴重な経験でした。(教員)
- ・菅さんの取り組みが、実際の企業の取り組みや今後の展望を知ることができて、ためになった(教員)
- ・生徒の将来や進路に影響を与えるような強いインパクトがあった。(教員)

アンケート (抜粋)

【生徒の声】

- ・とても楽しくてたくさんのことを学ぶことができ、とても良かったです。また参加したいです。(静岡・清水東)
- ・経験済みの議題もあれば、全く関わったことのないディベートもあり、とても楽しかったです。(埼玉・県立浦和)
- ・刺激を受ける内容ばかりでとても勉強になり良かったです。(神奈川・茅ヶ崎北陵)
- ・自分が思いつかない論題だったり、いろんな考え方ができる論題で面白かった。キーノートレクチャーも他のディベートの論題に生かせるないようで面白かった。(茨城・牛久)
- ・全国各地の普段戦うことのない高校とも戦うこともでき友人関係も広げることができたのでとても有意義だったと思う。(神奈川・柏陽)

- ・2日間色々なことを学べたりいろいろな高校と関わることができたりして楽しかったです。
(東京・三田)
- ・はじめての対面試合の機会をくださりありがとうございました。一生の思い出になり、大学でも続けたいとおもえました。ありがとうございました。(鹿児島・大島)
- ・面白い議題が沢山あって新たな考え方も生まれたので、ためになりました。PDAの大会には参加したことがあったけど、対面方式で試合をするのはほとんどしたことがないので、新たな経験となり楽しかった。また、プレゼント交換などのイベントがとても楽しかった。(千葉・翔凜)
- ・ディベートの考え方がディベートの中だけで終わるのではなく社会に出ても活かせるということが実感でき、より一層意欲が湧いた。(京都・堀川)
- ・初の全国大会でしたが、回を重ねるごとに上達する実感を得ることができました。また、試合後からジャッジの講評までの時間が短く、どこを改善すれば良いのかがわかり、今回の大会を経て上達することが出来たと思います。(東京・日比谷)
- ・今回は初めてオフラインで参加する事が出来て嬉しかったし楽しかったです。また実際に他校のスピーチを聞いているとオンラインとは違った迫力があり、自分にとっても勉強になりました。motionが面白くて楽しくディベートが出来ました。ありがとうございました。(東京・富士見)
- ・多くの高校と触れ合える良い機会であった。また参加したい。(長野・諏訪清陵)
- ・初めて全国大会に出場して日本全国の素晴らしい生徒たちとディベートができとても良い経験になった。もっと頑張らないといけないなと改めて感じた。(鹿児島・鹿児島情報)
- ・青森から現地に実際に来てみて本当に良かったと思った。上位校のレベルを知ることができ、自分のモチベーションにしたいと思う。(青森・青森)
- ・とても楽しかったです！ジャッジの方や、大会の運営に関わってくださった方々には感謝しかありません！二日間ありがとうございました！(奈良・奈良)
- ・ディベート楽しかったです。素晴らしい機会をありがとうございました。(滋賀・彦根東)
- ・今までずっとオンラインでしたが、初めてのPDA対面大会でとても楽しかったです。現地にはいないと伝わらないデリバリーの力など、熱量も伝わってきて、やっけていても見てもとても楽しいディベートでした。大会を企画、開催してくださり、ありがとうございました。(神奈川・湘南白百合)
- ・県大会での悔しさを糧に、この大会に向けて努力してよかったと心から感じられる収穫を多くもらえる素晴らしい時間でした。ありがとうございました。(岩手・一関第一)
- ・ディベートはもちろん、キーノートレクチャー、プレゼント交換もとても楽しかったし、勉強になりました。ありがとうございました。(鹿児島・鶴丸)
- ・良い学びになり、人生経験をつむうえで良いシーンになったと思うので、意義ある経験でした。(神奈川・多摩)

- ・今後の糧になることをたくさん教えてもらえて大変有意義な大会で、ずっとディベートを続けたいと思った。(群馬・太田女子)
- ・参加しなかったら得られなかった新しい視点をたくさん見つけられました。また、どのように主張を展開させると強いかなども学ぶことができました。(福岡・城南)
- ・来年ももう一度やりたいと思いました。(鳥取・鳥取東)
- ・普段はなかなか会えないような日本中の方とディベートと合流ができ、非常に楽しかった。ジャッジの方からの的確なアドバイスをいただいたので、これからのディベートに活かしていきたいと思う。(奈良・奈良)
- ・やはり強い相手が多く、とても勉強になりました。また、交流がとても楽しかったです！オンラインという事でその場の雰囲気を感じられなかったのが悔しかったです、とても貴重な体験となりました！(鹿児島・鹿児島情報)
- ・色々キャッチーで面白いと思いました。自分でディベートをやったり、人のディベートを見ていると、一見何も繋がっていないような話や 이슈に帰結することがあり、それも筋が通っているので物事の複雑さがわかる論題だった。(千葉・県立船橋)
- ・zoomでの交流会等、遠隔の者も楽しめる工夫、ありがとうございました。大会はもう少しピリピリしているのかと心配していたのですが、終始楽しかったです。開催していただき、本当にありがとうございました。(栃木・宇都宮東)
- ・様々な種類の論題でディベート出来てとても勉強になったし、楽しかった。またジャッジの先生方もとても優しく試合をして楽しかった。(長野・松本県ケ丘)

【教員の声】

- ・私が高校生の時から選手として参加しており、今回は教員として参加させていただき、生徒の時からお世話になっている学校とも交流できてよかったです。
- ・今回の経験で生徒のやる気に火がついたようです。大変示唆に富み、有意義な機会をありがとうございました。
- ・生徒にとっても教員にとっても大いに刺激をいただけた大変貴重な機会になりました。運営の皆様、このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。
- ・社会情勢を知らないと難しい論題があったので、生徒がニュースチェックする動機づけになったと思います。
- ・生徒達の成長を感じました。ジャッジの方々から頂いたコメントで自信がついた生徒もいます。ありがとうございました。
- ・勝ち負けにとらわれず、参加生徒が楽しんでいました。
- ・ハイレベルな試合に参加させていただき、生徒たちはとても良い刺激を受けてくれました。運営して下さった皆様本当に感謝申し上げます。機会いただきましてありがとうございました。
- ・毎回、とても有意義な会です！1年の中で一番学びが多い会だと思っています。

以上